冬のエコライフ～賢い選択で鳥取の冬を快適に過ごそう～

みなさんは、今年の冬は寒気の影響が出にくいという長期予報が発表されましたが、急な寒波や豪雪に備えて、暖かく快適に過ごす工夫は欠かせませんね。鳥取の冬を快適にお財布にも地球にも体にも優しい COOLCHOICE で過ごしましょう！

①窓や床を断熱化！

なんと!!暖房時、熱の半分以上は窓から家の外に逃げています。窓にプチプチシートを貼ったり、厚手のカーテンを取り付けたりで年間約 30kg の CO_2 を削減でき、約 1400 円の節約になります。

②みんなで楽しくウォームシェア

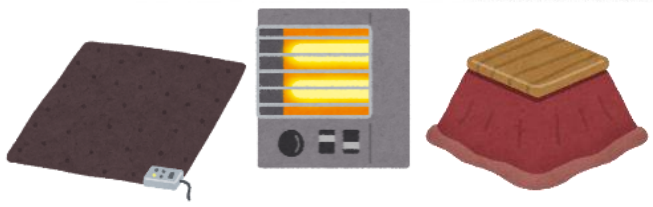
冬に食べたくなるのは、お鍋ですよね。ご近所で１つの部屋に集まって鍋パーティをすれば、会話が弾むだけでなくウォームシェアで一石二鳥！学生にもおススメです。

③暖房時間を１時間短く！

寝る前や家を出る前に20～30分早めに切ってトータルで１日１時間減らせば(エアコンの場合)年間約 1,100 円もお得に！①と組み合わせればもっと快適になりますよ。

番外編

電気ストーブや電気こたつ、電気ホットカーペットはエネルギー浪費につながります。スイッチを付けなくても暖かくする「断熱」アイデア実戦で家庭の燃費向上につながり



特集

IPCC 特別報告書「1.5℃の地球温暖化」

世界的に異常気象が頻発する中、国連が主導する科学者や各国の政府代表者である気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が、政策決定者向け特別報告書『1.5℃の地球温暖化』を発表しました。気温の上昇幅が「２℃」と「1.5℃」との場合の影響を比較し、「生態系が受ける影響」などにおいて、「２℃」の方がより悪影響が大きくなるリスクとともに、パリ協定締結当時努力目標とされた「1.5℃未満」に目標を修正すれば、人類と生態系が適応し妥当なリスクの範囲内に留まれる余地が広がると科学的に訴える内容です。

産業革命以降、地球の平均気温はすでに１℃気温が上昇しています。　人類は数万年の間、地球史上稀に見る穏やかな気候の中繁栄してきましたが、たった１℃の気温上昇ですら、私たちの身近なところでは本州でゴーヤが育つようになり、桜の開花や紅葉の時期が２～３週間もずれ、台風の数は増加し進路は東北や北海道を過激に通過、リスクを無視して開発された地域や地盤の脆弱なところ、都市化され自立できない地域を襲うようになりました。いつ我々の地域を大規模に襲来しようとも驚くような状況ではありません。この状態であと１℃の上昇を待つことは将来世代である子どもたちへの重大な裏切り行為と言っても過言ではないでしょう。

そんな中起きた九州での大規模太陽光発電に対する出力停止は、再エネを推進し温室効果ガスを実質０にするロードマップ上にあって、「火力発電所や原発は出力抑制をこまめにできないから」という先進国からは失笑を買うようなベース電源理論とそれまでに投じた再エネへの税金や投資の無駄に繋がる失態とも言われます。

地球の平均気温を 1.5℃に抑えながらも現代世代の利益や快適性を損なわず、それどころかますます発展する社会への物理的・制度的技術を我々人類はすでに獲得しつつあります。しかしそれを、政策や経済、社会基盤づくりに上手に組み込み実現させる、縦割りを超えたアイデアを発揮すべき時は今なのだと報告書は語っています。(文責:山本ルリコ)＊日本海新聞掲載 10 月 30 日掲載文に加筆修正